



ナガウニ（ホンウニ目ナガウニ科） *Echinometra mathaei*

沖縄のサンゴ礁（礁池や潮だまり）で、もっとも普通に観察できるウニである。

とげの先が白色であるのが特徴の一つである。このナガウニは、とげがガンガゼ（とげが長い）などのように、それほど長くないが、名前は「ナガウニ」という。ナガウニの「ナガ」は、実はとげの長さではなく、殻が「長い」円の形になっていることから、そのように呼ばれている。

ウニは移動のときには、体中に生えているとげで動いているように見えるが、とげではなく、とげの間から出ている管足で歩いている。

泡瀬地区の干潟を散策すると、よく観察できる生き物の一つである。

岩のすき間にぴったりとはまって、じっとしていた。この場所はウニにとって居心地の良い巣になっているのだろうか。